

令和6年度 大館市立上川沿小学校 学校評価書（前期・年度）

1 学校教育目標

夢いっぱい 未来を切り拓く 上小の子

2 目指す学校像 「笑顔とあたたかさのある学校」

- ☆一人一人が大切にされる学校 (子ども)
- ☆開かれた学校、地域と共にある学校 (保護者・地域)
- ☆同僚性を発揮し教師力を高め、信頼される学校 (職員)

3 めざす子どもの姿

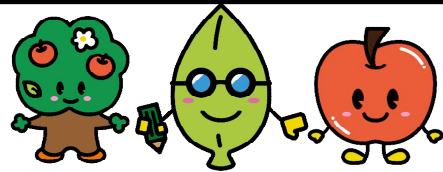
「ハートさん、カッシーさん、ニュートンさんを
体現できる子ども」

- ☆やさしく（ハートさん） 豊かな心で支え合う子ども
- ☆かしこく（カッシーさん） 学びを深め合う子ども
- ☆たくましく（ニュートンさん） 心と体を鍛え合う子ども

4 今年度の重点実践事項

- 基礎学力の向上
 - ・おおだて型授業による学びの充実
 - ・活気と主体的学びのある学習
 - ・課題解決のために企画、発信する活動
- 総合的人間力の向上
 - ・ICTの効果的な活用による理解の深化
 - ・コミュニケーション能力を生かした活動
 - ・上川沿地区に元気と笑顔を届ける活動
- 学級力、児童会力の向上
 - ・安心して発表できる学級づくり
 - ・潤いをもたせる児童会活動
 - ・自己有用感を高める集団活動

令和6年度テーマ
「上を見て、上を目指して、
いいな上川沿」



全校小学校キャリア教育研究協議会
6年総合「発信！とびっきりの上川沿
～地域上げ上げプロジェクト～」授業



「渋谷・大館交流の絆」交流会
渋谷区の20名の児童と学校紹介、
給食、稲刈り体験活動で交流



市教研低学年算数科授業研究会
積極的に発表をつなぎ、学級のみ
んなで認め合う学び合い

5 評価

自己評価Aと学校関係者評価の評価区分	きわめて良好	自己評価Bの評価基準	5	実現状況は極めてよく意識も高い／95～100%達成
	良好		4	実現状況は良好で意欲もある／85～94%達成
	おおむね良好		3	実現状況はおおむね良好／70～84%達成
	やや不十分		2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／50～69%達成
	努力を要する		1	実現状況は不十分で努力を要する／49%以下の達成

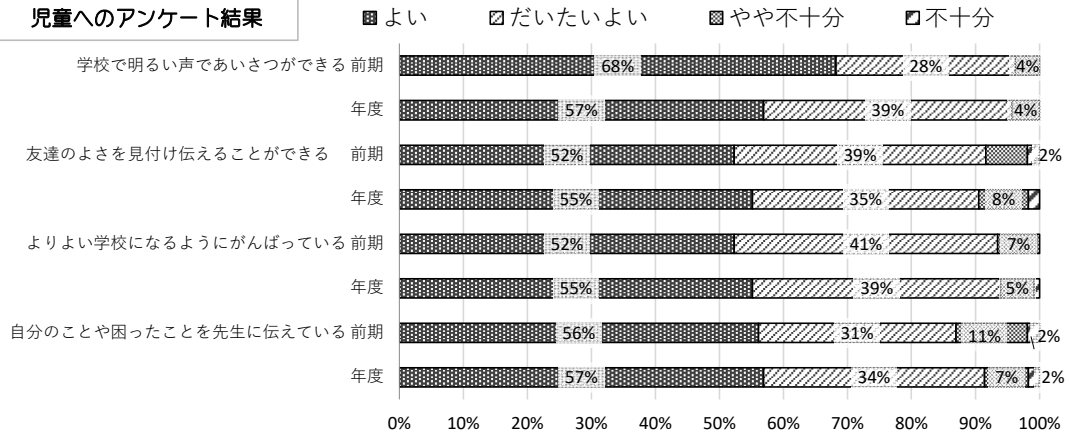


I 思いやりの心 たくましい心

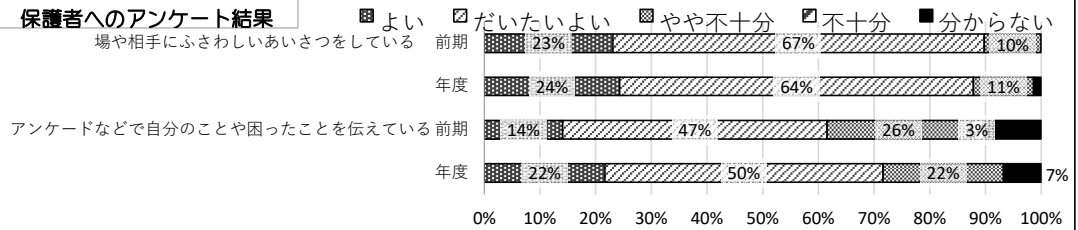
評価項目		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
人を思いやり、助け合う心情と態度を醸成しながら、自立への基礎をはぐくもうとしている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	全校あいさつ運動、あいさつボランティアなどの「あいさつの向上に関する施策」やいじめアンケートなどの「児童理解に関する施策」に十分に取り組んでいる。重大な案件などが無く、生徒指導や児童理解にチームで取り組み、成果を上げているところが評価できる。
	年度	良好	良好	上小の子どもたちのあいさつは、保護者からの評価も高い。あいさつ運動は、互いに声をかけ合うところがすばらしく、あいさつマスター等も含めてよい取組である。いじめ防止については、児童を語る会などを実施し児童理解を充実させながら、愛情をもって子どもたちを育むことができています。職員の情報共有やコミュニケーションをより強めながら、今後も子どもたちを支えてほしい。
自己評価の概要と学校の改善策	【前期(一年度)】	<p>(1)今年度は、全校あいさつ運動(6月・学年)の他に、プロジェクト委員による毎朝のあいさつ運動を重点的に行った。あいさつのよい児童や運動に進んで参加してくれた「あいさつボランティア」の児童を放送で紹介したことで、あいさつについての意識が昨年度より高まった。また、「あいさつマスター」を児童や担任、校長などの推薦で選出した。後期も委員会を中心にさらに盛り上げ、広げていけるよう、進めていきたい。</p> <p>(2)ハートデーを毎月1日に設定し、月目標に関わる項目について頑張っている友達を理由とともにリンゴカードに書き、掲示している。繰り返し行うことで、同学年の友達から、他学年へ目を向ける児童が増えている。後期も継続し、お互いのよさを見つめる目を育て、自己有用感を高めさせたい。</p> <p>(3)委員会活動では、新しい取組やよりパワーアップした活動が計画された。児童総会でも各委員会へ様々な要望が出されるなど、児童が学校をよくしようという意欲が高学年を中心に見られ、それが学校全体に良い影響を与えている。後期は、前期の反省を生かして計画を立て、より主体的に取り組めるようにしていきたい。</p> <p>(4)学期1回の市のいじめ調査の他に、昨年度から月1回「心のアンケート」を実施し、必要に応じて教育相談を行っている。いじめの早期発見や対応のためだけでなく、教師と児童が話す機会を増やしたことで、児童理解や話しやすい雰囲気、教師と児童の信頼関係を築くことができた。</p> <p>(5)指導支援のための様々な会を開催し、全職員で共通理解を図ることができた。また、様々な問題には、担任、管理職、生徒指導部長を中心に対策を協議し、対応することができた。今後も「チーム」として指導に当たれるよう、職員同士のコミュニケーションを高めたい。</p>		
	【年度(一次年度)】	<p>(1)後期もプロジェクト委員によるあいさつ運動と学年ごとの全校あいさつ運動を両輪に、あいさつマスターの選出やあいさつボランティアの紹介などを行った。また後期児童総会で、挨拶への取組について3年以上の児童で意見を交流する機会を設けたことで、挨拶への意識をさらに高めることができた。</p> <p>(2)学級テーマや学級力アンケートを基に様々な活動や行事にねらいやめあてをもって取り組んだり、仲良く助け合い協力し合ったりする姿が随所に見られた。来年度は、児童のより上を目指そうという気持ちを高めたり、リーダーを育成したりするための手立てを職員で確認し合い、進めていきたい。</p> <p>(3)委員会活動では、児童総会での委員会への要望を基にして、様々な新しい活動が行われた。また、昼の放送を通じて活動を発表する委員会が多く、全校児童が興味・関心をもって聞いていた。低学年を含む全校児童の反応から、委員会の児童たちは、自分たちの活動に自信をもち、意欲的に取り組むようになった。来年度は、徐々に進む児童数減少のため、委員会数を5つから4つに減らすことにしている。児童が新たな気持ちで活動内容を考え、今年度の盛り上がりりが継続できるようにしていきたい。</p> <p>(4)後期も年3回の市のいじめアンケートと毎月の「心のアンケート」を行うことで事案を発見し、教育相談を通じて状況把握や対応を素早く行うことができた。継続して行うことで、教師が困り感もちやすい児童を気にかけて見取り、変化に気を付け、対応できるようになってきたと感じる。来年度も日常の観察や対話とアンケートを併用しながら、児童一人一人に寄り添い、支援していきたい。</p> <p>(5)後期も「いじめ不登校対策委員会」や職員会議後の「児童を語る会」などを開くことで、全職員で事案に対しての共通理解を図ることができた。今後若年層の教員が増えることを考えると、来年度以降も学級担任が問題を一人で抱えず、「チーム」として対応することが必要になってくると思われる。話しやすい職場の雰囲気づくりや職員同士のコミュニケーションの構築を心がけていきたい。</p>		

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
1 基本的な生活習慣	(1)場に応じた言葉遣いとさわやかなあいさつ	全校あいさつ運動の実施 あいさつマスターの実施	4	4
2 集団生活・集団活動	(2)認め合い、高め合う学級・学団	学級経営・学団経営の充実 学級力アンケート、学級活動や学団集会、行事における活躍の場の設定と適切な称揚、ハートデーの実施	3	3
	(3)協力し、支え合う異学年集団	児童の考えを生かした児童会活動の充実 縦割り班による活動(清掃、委員会活動、児童総会等)	4	4
3 一人一人のよさの発揮	(4)児童理解の充実	いじめアンケートや教育相談週間の実施と活用	3	4
4 組織的な生徒指導	(5)指導支援の充実	児童を語る会や教育支援委員会、ケース会議の充実と全職員による支援体制の確立 スクールカウンセラー等外部機関と連携した支援	3	3

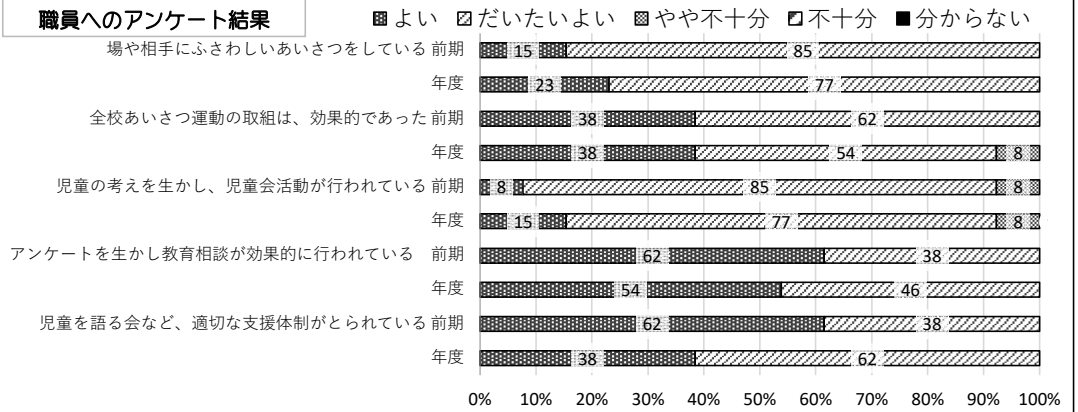
児童へのアンケート結果



保護者へのアンケート結果



職員へのアンケート結果



児童総会でのあいさつについての
意見交流



学年ごとにやり方を工夫した
全校あいさつ運動



委員会への様々な要望が出された
児童総会



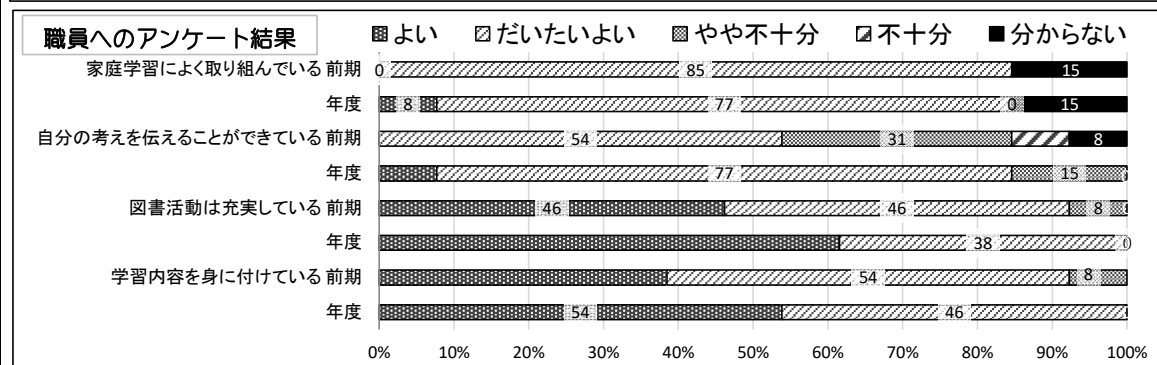
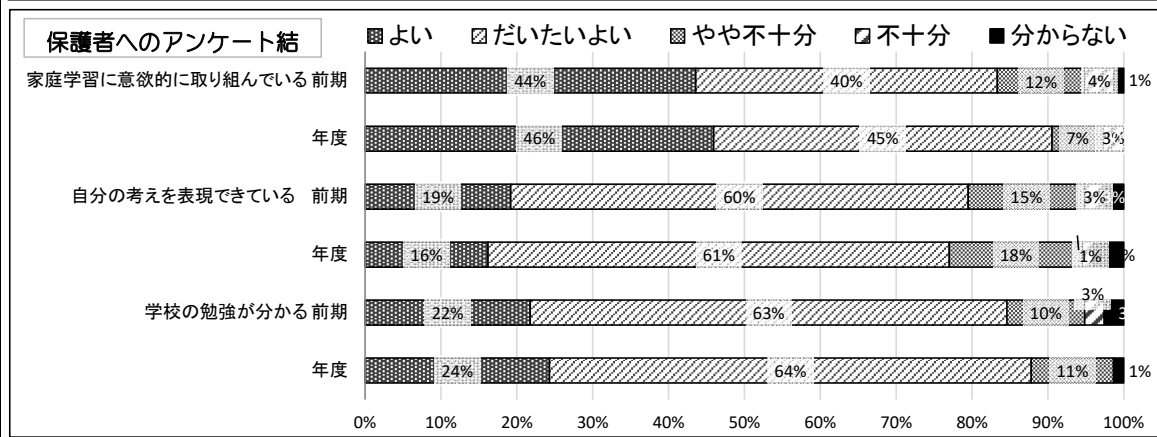
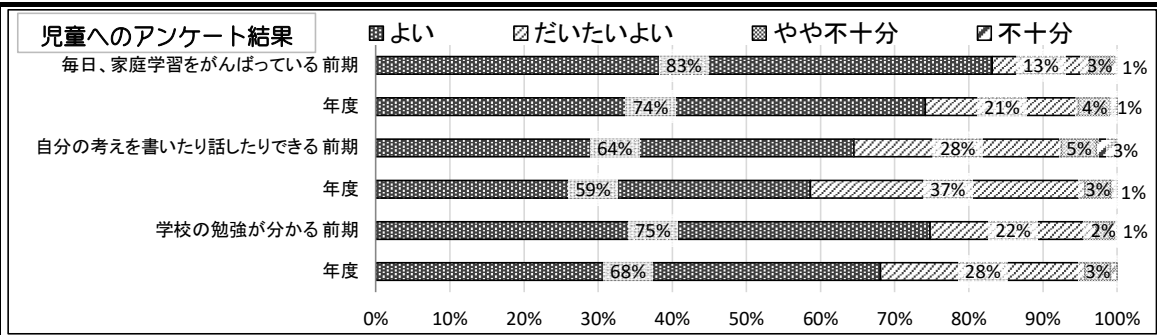
委員会の活動の足跡が見える委員会コーナー

Ⅱ 基礎学力の定着

評価項目		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
基礎学力の定着と表現力の育成を通して、主体的に学び合うことのよさを実感できるよう工夫している。	前期	おおむね良好	おおむね良好	基本的な学習習慣について、学年差はあるが、しっかりと取り組みがなされている。今年度の上小のテーマにも学力向上が掲げられており、これからも期待したい。 読書については、活字離れが進む傾向にあることが懸念される。読み聞かせなどを取り入れるなどの工夫をして、読書意欲が高まるようにしてほしい。ICT活用もさらに進めてほしい。
	年度	良好	良好	週末読書(本の紹介カード)や読み聞かせの取組は、読書意欲向上の足掛かりとなっている。また、読書活動は漢字学習や読む力の育成にもつながっていくものである。学年の発達段階を考慮したカードにしたり、新しい活動(ビブリオバトル等)を取り入れたりし、保護者にも協力してもらいながらさらに読書活動を推進していくとよい。 ICTについて、そのメリットとデメリットを理解したうえで、児童・教師にとってよりよい活用の方法を模索していったほしい。

自己評価の概要と学校の改善策	【前期(→年度)】	<p>(6) 基本的な学習習慣の形成のため、学期はじめに「学習の約束」強調期間を設けた。黒板に掲示することができるカードを活用して日替わりで「学習の約束」を意識して過ごすことができるようにした。学年によって身に付いている項目に差があるため、引き続き実態に合わせてカードを活用し指導していく。家庭学習の充実を図り、全校朝会で各学年の手本となる一人勉強ノートを紹介した。その後の全校ノート展の期間には、手本を意識して取り組んだノートが多く見られた。</p> <p>(7) 授業の練習問題では、学習状況調査や単元テストの過去の問題に取り組むことで基礎学力の定着を図っている。週2回の朝学習を活用して行っているカッシータイムでは、計算や漢字だけでなく音読にも取り組み、基本的な力を伸ばすことができるようにしている。さらに基礎学力を高めるために、児童の実態に合わせて取組内容を計画していく。</p> <p>(8) 授業では、これまでやこれからとつなげて考えることができるように「授業前・今・これから」の3つの視点に沿って振り返りを行っている。また、自分の考えをもつ時間を十分に確保してからICTなどを活用してステップアップタイム(学び合い)を行ったことで、多くの児童が「自分の考えを書いたり話したりできる」と回答している。全体で発表することに苦手意識をもつ児童も多いことから、学団ごとにお話タイムを行い、授業外でも話すことの練習に取り組んでいる。全体の場での表現意欲を高め、さらなる学び合いの充実を図っていく。</p> <p>(9) 学習コーナーを設け、いつでも用語や既習事項を見直すことができる掲示を行っている。花壇や学習園・学習田なども地域の方の協力も得ながら整え活用し、体験的な学習の充実を図っている。</p> <p>(10) 図書活動では、図書委員会による図書室での読み聞かせ会や本クイズを行い、児童が図書室に行きたくなくなるような企画を充実させた。栗盛記念図書館との連携や、家庭への発信により、さらに児童の読書意欲を向上させることができるようにしていく。</p>
	【年度(→次年度)】	<p>(6) 学習習慣の形成のために継続して学習の約束カードを活用した指導を行うことで、日常的に約束を意識して過ごす児童が増加した。アンケートでも学習の約束に関する複数の項目で90%以上の児童が「よい・だいたいよい」と答えている。家庭学習の充実を図り、定期的に全校ノート展を開催し友達の一人勉強ノートを自由に見ることができるようになったことで、ノートの使い方などを工夫して取り組む児童が増加した。さらに、内容の充実を目指した取組を工夫していく。</p> <p>(7) 秋田県学習状況調査や標準学力検査の前には、週2回のカッシータイムを対策時間にあてて補充を行った。秋田県学習状況調査では、3学年11教科中10教科で県平均を上回る結果となった。学力テストの結果を分析して、6年間を見通した各教科の留意点について全職員で確認し、今後の指導に生かしていきたい。</p> <p>(8) ICTを効果的に活用した学び合いのある授業を継続して行ったことで、98%の児童が「自分の考えを書いたり話したりできる」と回答している。また、学団ごとに行ったお話タイムでは、大勢の場でもはっきりと聞こえる声で話すための活動や、その場で考えたことを進んで話すための活動などを行った。さらに表現力を高めることができるような授業づくりを推進していく。</p> <p>(9) 学びのあとが分かる掲示を行っている。児童が冬休み新聞を書く参考となるように、過去の手本となる冬休み新聞をワークルームに掲示した。新聞づくりが初めてとなる4年生も構成を意識し、充実した内容の新聞を書くことができた。</p> <p>(10) 児童の読書意欲を高めるために、栗盛記念図書館の司書の方に来ていただき、図書環境を整えたり全学年に読み聞かせをしたりしてもらった。また、図書委員が行った出張図書室では、ワークルームで図書室の本の貸し出しを行うことで普段図書室で本を借りない児童も本を手に取り読書をするきっかけとなった。さらに、家庭での読書を推進するために月に1回「週末読書」を行い、読んだ本の紹介カードを書く取組を行った。全校児童の本紹介カードを掲示することで、友達のすすめ本を手取る児童が増えた。今後も、学校でも家庭でも本に触れる機会を増やす活動を続けていく。</p>

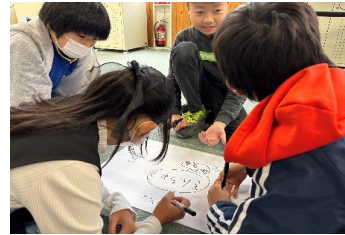
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
5 学習への取組	(6) 基本的な学習習慣の形成	「学習の約束」強調週間の設定と継続指導 家庭学習の充実	3	4
	(7) 基礎学力の定着	授業における評価の活用 カッシータイムの実施 学習状況の分析と共通理解及び補充指導の実施	3	3
	(8) 思考力・判断力・表現力の育成	学び合いの充実 お話タイムの実施 ICTの活用と充実 振り返りの充実	3	3
	(9) 学習環境の整備	学習コーナーの充実 参考作品の掲示による啓発 花壇・農園の整備	4	4
	(10) 読書意欲の向上	図書活動の充実 朝読書の実施 読み聞かせの奨励	3	4



一人勉強ノートを展示した
全校ノート展



県学習状況調査に向けての
カッシータイム



縦割り班で行ったお話タイム



冬休み新聞の参考作品



栗盛記念図書館司書による
読み聞かせ



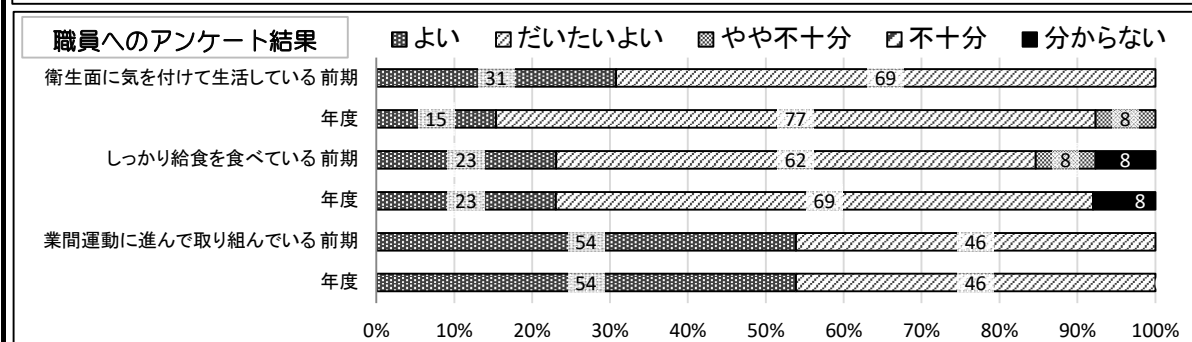
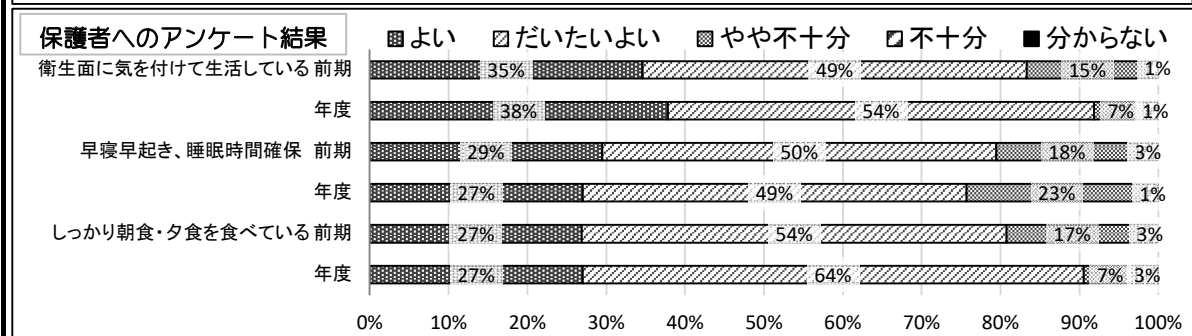
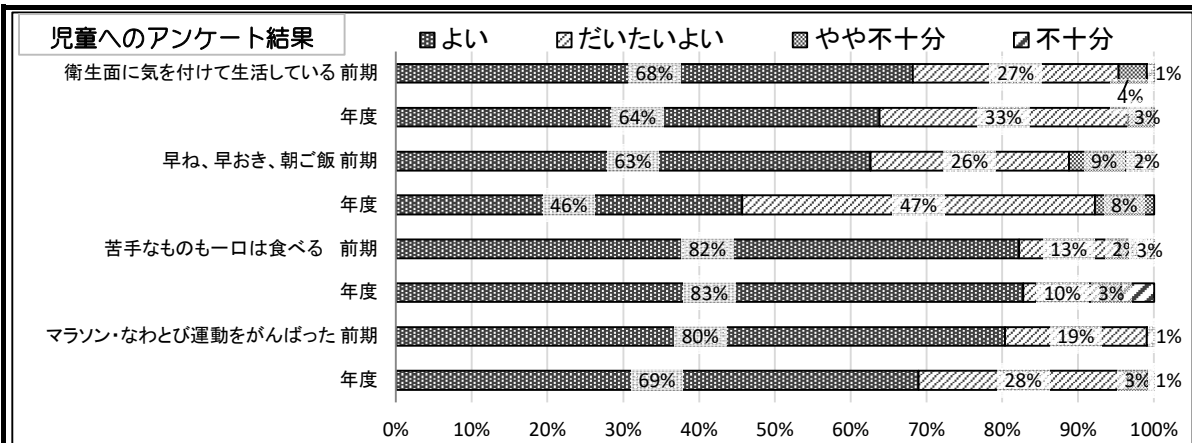
ワークルームで行った

Ⅲ 健康と体力

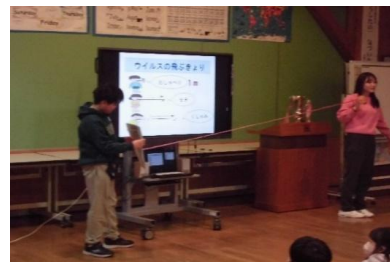
評価項目		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
体力づくりと健康増進を推進しながら、心身ともに健康でねばり強く物事をやりとげる子を育成しようとしている。	前期	おおむね良好	良好	児童ヒアリングでは、「学校が楽しい」「外遊びが楽しい」という声が聞かれ、昼休みにもたくさんの児童がグラウンドで外遊びを楽しむ姿を見られることから、体力の向上が図られていることが分かる。 メディアコントロールについては、保護者からも、家庭で約束を決めて取り組んでいるというコメントがあり、メディアコントロール週間の取組は、回を重ねるごとに、徐々に効果が出てきているといえる。
	年度	良好	良好	メディアコントロールやネットモラル教室の取組は評価できる。メディアを使いこなす能力と知識について、子どもたちは、まだ未熟である。学校からも有益な情報を発信しつつ、家庭と連携しながら育ててほしい。 上小は、体を動かせる場が豊富にある。さらなる体力向上のために、運動の行い方(体の使い方)や動きを身に付けるための指導が必要である。 感染症予防への取組も継続して行われていてよい。

自己評価の概要と学校の改善策	【前期(→年度)】 (11)清掃指導においては、全職員が「清掃指導が充実している」と回答している。班長を中心に児童がしっかり清掃に取り組んでおり、清掃終わりの反省会にも職員がいるように共通理解をしている。メディア依存という点では、これまでの啓発活動や学級指導により、保護者の意識は確実に高まってきている。しかし、若干ではあるが改善に至っていない家庭も見られる。歯みがき指導は、今年度も保健師さんを講師にお迎えし、実技で行った。虫歯になると体の成長に大きな影響があることや毎日の歯みがきを正しく行うことで健康を維持できることを学んだ。実技では、汚れに反応するカラーテスターを使用し、自分の磨き方を実際に確認することができた。 (12)望ましい食習慣の形成では、給食センターの大越先生から児童の実態に応じた食育授業をしていただいた。低・中・高学年ともに『朝食の大切さ』についての授業を行った。発達段階に応じた指導内容で、児童の実践意欲へ結び付くことに期待したい。ここ数年継続しているためか、児童アンケートでは「苦手なものもひとりは食べるようがんばる」という項目がほぼ100%であった。ただ、年々偏食傾向をもつ児童は増えてきていると感じている。 (13)業間運動に楽しく取り組ませるために、たくさん走った人がすごいなど、競うような要素を取り除くようにした。中休み20分のうち5～10分のマラソンとし、友だちとおしゃべりをしながら、あるいは下級生が上級生を追いかけながらおにごっこのように走る姿も見られた。記録賞のようなものもやめ、走るのが苦手な児童は途中から歩いてもよいことにした。月曜日は業間運動をなしにした。過度な負担感がなくなったことから、みんな楽しく運動に取り組んだ。また、日常生活における万への備えとして、AED講習会やエビベン講習会などの職員研修も行った。
	【年度(→次年度)】 (11)学校医や薬剤師、保護者を迎えて学校保健委員会を開催した。児童の発育状況や生活スタイルについて話し合いを行った。ほとんどの保護者が、子どもとメディアの関わりについて悩んでいることが明らかになった。今後も、メディア過多の弊害や上手な利用の仕方について情報提供や指導できる機会を設定していきたい。全校集会では、感染症予防の観点から、養護教諭と健康委員会児童による講話から咳エチケットについて学んだ。また、手洗い教室では、正しい手洗いの仕方を知り、養護教諭の指導のもと、実際に手洗い練習をすることができた。これらの衛生指導により、感染症予防に対する児童の意識は高まっている。例年と比較すると、今期インフルエンザやコロナに罹患した児童は少ない。今後の流行拡大も懸念されるため、継続して指導していきたい。 (12)給食委員会の企画で、給食ベロリン週間を設けた。これは、児童自身が自分に合った量を知り、好き嫌いせずに食べきろうという趣旨のもと行っているものである。フードロスの観点からも、今後も続けていきたい活動である。特に、残食することが多い傾向にあった児童にとって、効果的な取り組みであった。 (13)縄跳び運動では、全校集会で高学年児童が様々な跳び方を披露し、縄跳び運動への意欲を高めた。競うのではなく、自分の技能に応じて楽しく跳ぼうと呼びかけたことで、自主的に取り組む児童が昨年よりも多く見られた。また、冬期間は、ハートルームを解放し、体育館使用割り当て以外の学年でも縄跳び運動が継続できるようにしている。今後も、年間の業間運動や体育の時間で、児童の意欲を高めながら、運動する機会を増やしていきたいと考えている。

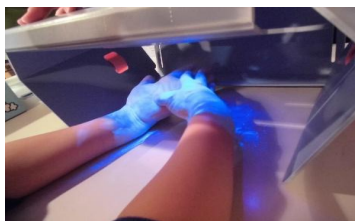
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
6 健康的な生活習慣	(11)健康な生活習慣の形成	清掃指導の充実 メディアコントロールデーの実施と指導 学級活動(生活習慣)・日常における歯磨き・手洗い指導の充実	3	3
	(12)望ましい食習慣の形成	給食指導・食育指導の推進 栄養教諭との連携	4	4
7 体力の向上	(13)継続的な体力づくりの実践	体力向上のための体育的活動・業間運動(マラソン・縄跳び)の実施 内外での遊びの奨励	3	4



学校保健委員会では、参加した方々から貴重な意見や体験談をお聞きし、メディアとの適切な関わりを意識することができた。



飛沫により、ウイルスが飛ぶ距離を体感した児童からは、「え〜っ」という声も聞かれた。継続的に指導していきたい内容である。



何度洗っても、手の青みがとれない児童も多かった。日頃の手洗いで、ただ濡らして拭いているだけだったという反省を口にする低学年もいた。



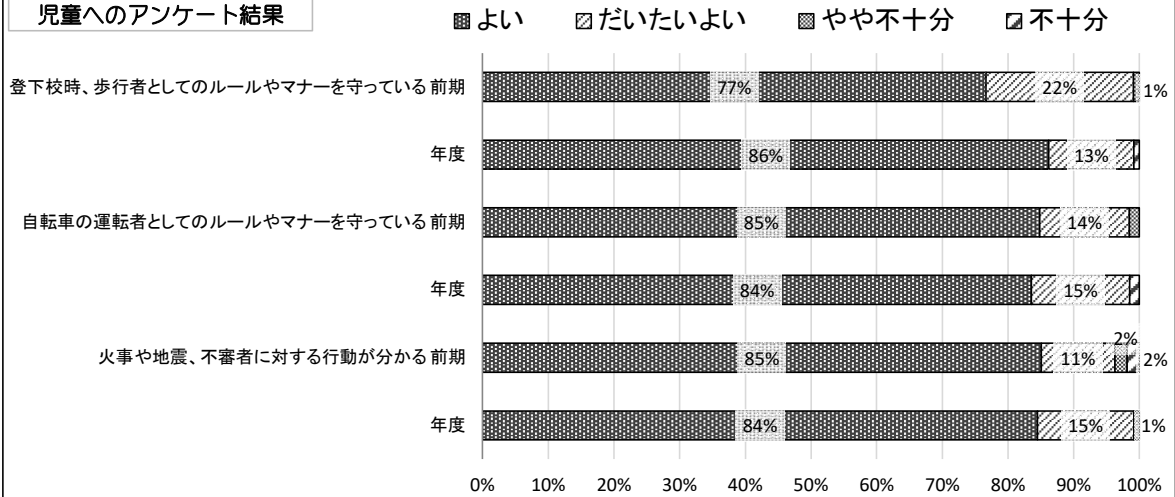
高学年の上手な跳び方に歓声も上がっていた。自分でできる跳び方で楽しく取り組むことを確認した。二重跳びができるようになった1年生もいた。

Ⅳ 安全・安心

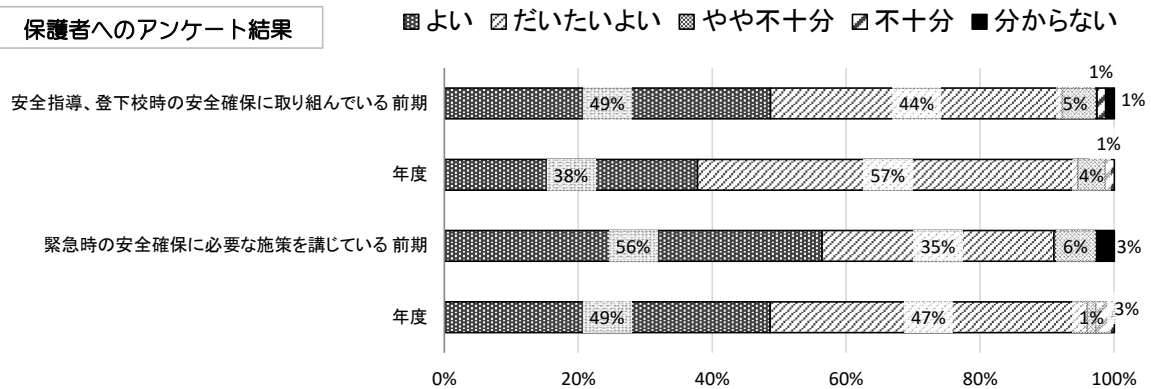
評価項目	自己評価A		学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
	前期	年度		
児童の安全確保に取り組んでおり、諸問題への組織的対応が図られている。	おおむね良好	良好	良好	クマ対策に関わる集団下校等にやや課題があるが、これまでの交通安全指導や地震対応避難訓練、不審者対応避難訓練などが計画的に実施されている点や今年度事故が発生していない点が評価できる。
	良好	良好	良好	継続的な指導により、子どもたちは、安全確保のためのルールをしっかりと守れている。また、各種災害等に対応するための避難訓練も計画的に実施されている。大きな事件、事故もなく学校生活が送れていることが評価できる。今年度、防犯パトロール用品を整備したように、地域の方が協力できる体制作りを大切にしてほしい。
自己評価の概要と学校の改善策	【前期(一年度)】 (14) 歩行者として、また、自転車の運転者として、ルールやマナーを守っていると答えている児童が「よい」「だいたいよい」を合わせるとほぼ100%となっている。4月に行った交通教室(1~3年歩行指導、4~6年自転車の乗り方指導)や随時学級で行っている指導が安全への意識を高めていると思われる。また、横断歩道や歩道、街灯の整備について関係機関へ要望を伝え、児童の登下校ルート環境整備にも努めた。クマ対策については、クマ鈴の貸与、校地内への忌避剤の設置を行った。今後も地域や保護者からの情報を得て継続指導を続け、安全に対する意識を高めさせながら事故防止につなげていきたい。 (15) 1学期に地震と不審者対応の避難訓練を行った。どちらの訓練も児童の避難行動はスムーズで、事前事後指導もしっかりと行われている。不審者対応避難訓練では、警察による防犯教室(児童)も行うことができ、アンケート結果からも、児童の危機管理に対する意識の高さが分かる。クマ対応については、突発的に起こるため下校見守り体制(児童下校状況調査、集団下校職員配置等)やそれらに関わる保護者への連絡について、警察の協力も得ながら迅速に行えるようにしていく。今後も、より実効的な危機管理体制を構築したり、危機管理に対する職員・児童の意識を高めたりしていけるようにしたい。 (16) 今年度の交通教室でも、上小子ども見守り隊、大館警察署、大館市交通指導隊、PTA生活指導部の方々と連携して、安全指導を行った。毎月の登校指導日には、市スクールガードリーダーや池内駐在所巡査長にも朝の登校指導に協力していただいている。また、各町内子供会でも、年度始めや交通安全運動期間には登校指導を行っている。子ども見守り隊活動では、協力団体が減ってしまうことがあったが、隊内で調整していただくことで活動が継続できた。今後も、関係機関と連携・協力しながら児童の安全確保・安全指導に努めていきたい。			
	【年度(一年度)】 (14) 校舎・校地の安全点検については、月1回の安全点検等を行った。危険箇所発見時は、迅速に児童に周知し、修繕(修繕依頼含む)を行った。また、歩行者・自転車の運転者としてのルールやマナーについては、前期同様、ほぼ全員が「よい」「だいたいよい」と答えた。冬期間は、積雪等により道路状況や危険箇所が変わってくるため、冬休み前に生徒指導主事から全校に向けて注意喚起を行った。次年度も登下校時の歩行や自転車の乗り方について全体指導や個別指導を行い、安全指導を継続して行っていきたい。 (15) 11月に、管理棟2階の理科室から出火したという想定で、2時間目終了後の休み時間から3時間目に避難訓練を実施した。各自が緊急放送を聞いて避難口を判断し、行動できていた。防災学習では、煙避難体験を行い、火災時の煙の恐ろしさや避難の仕方について学ぶことができた。また、避難訓練についての職員研修として、消火器と消火栓を用いた初期消火についての研修も行った。2月には、積雪時の火災を想定した避難訓練を実施予定である。また、熊対応、学区内で火災発生時の下校についても、状況に応じて対策を講じ安全確保に努めた。次年度も、緊急時を想定した避難訓練等を実施するなどし、危機管理を充実させていきたい。 (16) 登下校時に、PTAハート事業部や職員、上小子ども見守り隊の方々が徒歩や自転車通学の登校指導・見守りを行った。また、見守り隊の方々からの要請を受け、防犯パトロール用帽子・ベストを県の事業を活用して準備し、配付することができた。前期に引き続き、関係機関の協力により、登下校時の安全に対する児童の意識を高めることができた。次年度も、関係機関との連携を図り、安全確保・安全指導に努めていきたい。			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
8 安全教育と安全管理	(14) 校内外における児童の安全確保	交通教室の実施や防犯意識の啓発 通学路点検 登下校指導 校舎内、校地内の安全点検	4	4
	(15) 緊急時を想定した事前・発生時・事後の危機管理	緊急連絡体制の構築 災害別・季節別訓練の見直しと実施	3	4
	(16) 各諸団体と連携した安全確保・安全指導	交通安全指導 登下校の見守り活動の実施	4	4

児童へのアンケート結果



保護者へのアンケート結果



〈11月：火災避難訓練 防災学習〉

- ・休み時間の火災発生を想定。放送を聞き、避難ルールを守り避難した。
- ・煙の怖さとその対処の仕方について学んだ。(防災学習：煙避難体験)

〈初期消火研修〉

- 消火栓や消火器の仕組みや使用手順を研修した。



- #### 〈防犯パトロール用 帽子・ベスト〉
- 市教委からの紹介を受け、地域防犯活動支援事業者に応募し、提供してもらうことができた。



〈2学期終業式 生徒指導主事のお話〉

- 冬季の生活における危険について、写真等を用いて、分かりやすく指導した。



〈冬道の登校指導(3学期始業式)〉

- 積雪時の安全な登下校(歩き方)について、PTA・教職員で見守りや指導を行った。

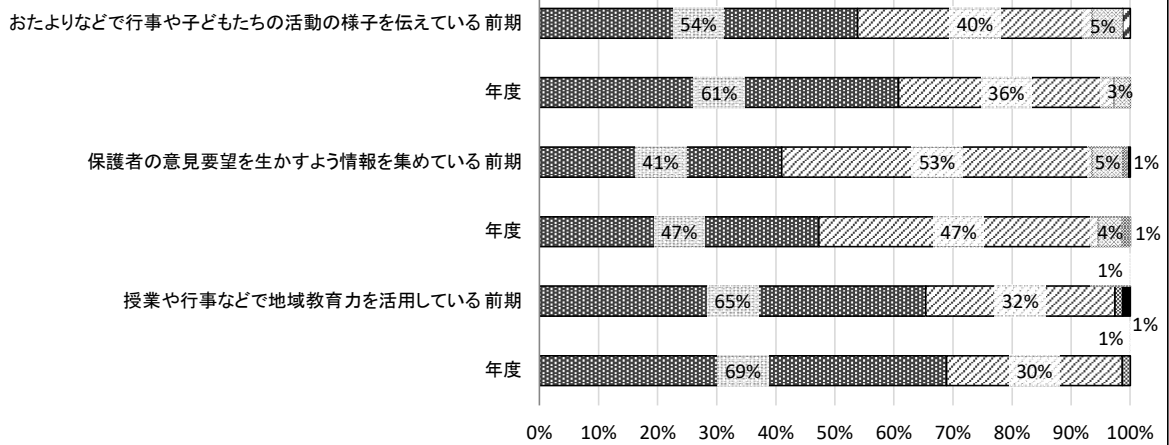
V 保護者・地域との連携

評価項目		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
保護者や地域に学校の様子が伝えられ、地域の教育力を有効に活用している。	前期	良好	良好	小中連携事業や幼保小連携事業、総合的な学習の時間(とびっきりの上川沿)等で、地域の教育力を生かした取組が計画・実施されている。地域や保護者への情報発信や情報受信について保護者の評価も高く、学校自己評価は適当であるといえる。
	年度	良好	良好	保護者や児童のヒアリングから、保護者同士のつながり、子ども同士のつながりの強さや学校・地域への愛着の強さが感じられた。学習発表会やとびっきり発表会などの学校行事等で、地域の方にも学びの成果を伝えることができてよかった。引き続き開かれた学校として上小のよさが伝わる活動を続けてほしい。
自己評価の概要と学校の改善策	【前期(→年度)】 (17)(18)学校の情報発信や情報受信について、保護者の方から、よい・だいたいよいを合わせると90%以上という高い評価を得ている。学校報や学年通信に加え、保健だよりや児童会だよりなどで、児童の日々のがんばりや健康に関することやなどについて伝えている。また、学校メールでは、クマ情報など安全面に関する情報提供も行った。1学期はホームページ更新が滞ってしまったので、学校での児童の様子をこまめに紹介していきたい。今後も保護者や地域の方々からご意見や要望をうかがう機会を設け、経営に生かしていきたい。 (19)異校種との連携では、一中学区小中連携研究会(第一中学校会場)、小中合同あいさつ運動、メディアコントロールへの取組の呼びかけを行った。また、一中生職場体験として本校に卒業生4名が来校し、全校児童と交流した。幼保小連携としては、こども園と小学校との相互授業参観やこども園と時期を揃えての地域のクリーンアップ、架け橋プログラムに係る職員研修を行った。後期も体験入学会や授業交流等を通して、連携を密にしていきたい。 (20)1・2年生のサツマイモ苗植え、2年生の地域探検、3年生の果樹体験、4年生の農家の講話や5年生の田植え、ヘリコプターでの薬剤散布見学、さらには保護者も参加したなし狩り遠足など、今年度も保護者や地域の方々など様々な方々に支えていただきながら、豊かな体験活動が展開できている。後期の活動についても、地域の方々の協力を得ながら、計画的に実施していきたい。			
	【年度(一次年度)】 (17)(18)情報の受発信では、学校報や学級便り・学校ブログで児童の様子がよく伝わるように、活動の写真や児童の作文などを数多く掲載することを継続したことで、高い評価につながったと考えられる。保護者の意見や要望は、日々の連絡帳や学校評価アンケートなどに丁寧に対処したり学級懇談会での保護者の声に耳を傾けたりしてよく検討し、今後も教育活動に生かしていきたい。 (19)10月に南が丘こども園の年長児が来校し、1年生と一緒に絵の具遊びを体験した。また、生活科の活動として、1年生が年長児にプレゼントするおもちゃを作製した。その作製に当たっては、こども園の先生にアドバイスをいただく時間を設けた。さらに、児童がこども園に出向き、遊び方を説明しながら年長児に渡すことができた。これらの作品は、上川沿公民館ふるさと文化祭で共同展示することになった。11月には、第一中学校での体験入学に6年生が参加し、中学1年生に質問をすることで中学校生活の見通しをもつことができた。2月には、こども園と1年生の雪遊び交流や、来年度入学予定児の体験入学、中学校との情報交換会も計画されている。それぞれと連携を図り、4月からの新生活がスムーズに進められるよう努めていきたい。 (20)上小教育の日には、授業参観の後PTA総務部主催のネットモラル教室が開催された。保護者も一緒に参観し、メディアコントロールやSNS利用に関する注意点について理解を深めた。総合的な学習の時間では、子どもたちが栽培に携わったりごや米を、上川沿公民館ふるさと文化祭の会場で販売し、盛況のうちに終わることができた。1月下旬には、上川沿公民館に地域の方々を招待し、「とびっきりの上川沿」の活動発表会を開催する予定である。また、2年生が餌釣会館を訪れてお年寄りや昔遊びをし、地域の方々との交流を深めた。3学期には、4年生が山館苑を訪問し、お年寄りの方々と交流する予定である。今後も地域の教育力を活用し、ふるさとを愛する子どもを育てていきたい。			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
9 情報の受発信と学校経営への反映	(17)保護者・地域への定期的な情報受発信	各種おたよりの発行やホームページの更新・改善による情報の発信 学校評価アンケート等での情報の受信	4	4
	(18)学校の使命と保護者・地域の声を生かした経営	学校運営協議会・学校評価・経営反省を生かした経営計画の修正と改善	4	4
10 幼保・小・中の連携	(19)異校種間の情報交換と多様な連携	授業参観等と交流行事の実施 一中学区小中連携研究会 幼小連携活動	4	4
11 豊かな体験活動	(20)地域の教育力の活用	とびっきりの上川沿・授業・行事での地域素材・人材の活用 「上小教育の日」の実施 PTA総務部と連携した講演会の実施	4	4

保護者へのアンケート結果

■ よい □ だいたいよい ▨ やや不十分 □ 不十分 ■ 分からない



〈3・5年生によるりんごと米の販売〉

上川沿公民館のふるさと文化祭の会場に、販売ブースを設置。学校キャラクター入りのエプロンを身に付け、呼び込みをしたり商品を手渡したりした。それぞれの商品にはオリジナルのラベルが貼られ、たくさんの方々に



〈南が丘こども園との交流〉

こども園の先生に、おもちゃ作りについてのアドバイスをいただいた。できたおもちゃを、年長児にプレゼントした。

〈上川沿公民館ふるさと文化祭〉

5・6年生が、学校紹介や、販売活動の宣伝を行った。



〈南が丘こども園との交流〉

1年生と年長児が、絵の具で共同作品づくりをした。

〈2年生昔遊び〉

あやとりやお手玉、メンコなどでお年寄りと交流した。

〈ネットモラル教室〉

メディアコントロールやSNS利用に関する講話を実施した。